

公益社団法人

大日本報徳社



二宮尊徳（岡村像）

報徳運動は、明治維新前後の日本の近代化黎明期に、二宮尊徳の唱えた報徳思想の普及をめざし、道徳と経済の調和の中で困窮する農民の救済をはかり、全国に広まりました。尊徳晩年の弟子の岡田良一郎の指導活動が盛んだった掛川は、やがて全国の報徳運動の中心となり、「大日本報徳社」が開設されました。

二宮金次郎は5歳のとき酒匂川の洪水で田畑を失い、14歳で父、16歳で母を失い、貧しい中で勤労に励み、一家を成し独学で



尊徳思想と大日本報徳社

見識を磨き、全国各地の困窮した六〇〇余の農村の救済に手腕を発揮しました。

その行動と実績を、二宮尊徳が体系化して唱えたものが「報徳の思想」です。それは、様々な生活様式（仕法）として人々の暮らしに定着していき、教えの根本を百八文字にまとめたものが「報徳訓」です。

人間の欲を認めながらも、周りとたくみに調和させ、心もお金も同時に豊かに育もうという倫理思想は、農村救済の枠を越えて明治経済人の活動分野に浸透しました。渋沢栄一、安田善次郎、豊田佐吉、松下幸之助、土光敏夫をはじめとする、多くの経済人たちに多大な影響を与えるなど、今も脈々と息づいています。

なお2003年からは、北京大学等から都市農村の格差是正思想として尊徳思想が評価され、国際二宮尊徳思想学会が大連、上海、北京など六回開かれています。

報徳訓

父母の根元は天地の命令にあり
身体の根元は父母の生育にあり
子孫の相続は夫婦の丹精にあり
父母の富貴は祖先の勤功にあり
我身の富貴は父母の積善にあり
子孫の富貴は自己の勤勞にあり
身命の長養は衣食住の三にあり
衣食住の三は田畑山林にあり
田畑山林は人民の勤耕にあり
今年の衣食は昨年の産業にあり
来年の衣食は今年の稼難にあり
年々歳々報徳を忘るべからず



第2代社長 岡田良一郎
(静岡県指定文化財(黒田清輝作))



大日本報徳社初代社長 岡田佐平治

掛川に根づいた報徳社運動

報徳運動は、江戸時代末期から、各地の困窮の村々を救い、農民生活の安定化に貢献した実学的な手法として全国に広がりました。特に静岡県には、明治三十年代、四百二十社の「報徳社」が結成され、特に、その活動が盛んだったのは、掛川を中心とした遠州地方でした。

二宮尊徳から直接に教えを受けた岡田佐平治、良一郎親子がリードし掛川藩内の農村復興の努力は、やがて明治8年(1875)の遠江国報徳社創設に結実しました。また、岡田良一郎は資金貸付所を明治7年(1874)に創設し、それが掛川信用組合を経て、日本で最古の掛川信用金庫となりました。また、産業に関する協同組合の思想は産業組合となり農業協同組合の原点となっています。一方、明治10年(1877)岡田良一郎が開いた私塾、冀北学会は、明治17年まで続き、県内外の152人の逸材を輩出しました。岡田良一郎の息子である岡田良平、一木喜徳郎も、冀北学会で学び、後に文部大臣や宮内大臣を務めました。



第3代社長 岡田良平



第4代社長 一木喜徳郎

大日本報徳社の事業は、岡田家四代で終戦を迎え不振に陥りかきましたが、GHQのインボイデン新聞課長的好评などもあり、戦後の復興を担いました。そして、第五代社長河井彌八(元参議院議長、第六代社長戸塚九一郎(元労働、建設大臣)と続き、第七代社長持賀慶吉(元東京大学農学部部長)を経て、第八代社長榎村純一(元掛川市長に引き継がれています。現在の榎村社長(平成13年)の時代に、大講堂等六つの近代和風建造物群の保存修復を約二十年かけて完工し、公益社団法人(平成24年7月)として活動しています。

公益社団法人 大日本報徳社

〒436-0079 静岡県掛川市掛川1176番地
TEL0537-22-3016・FAX0537-23-5523
<http://www.houtokusya.com/>
E-mail dainihonhoutoku@cy.tnc.ne.jp

報徳の教えは四つの柱

それは「至誠」「勤勞」「分度」「推讓」という四綱領です。



勤勞

何事にも一生懸命、勤勉に心をこめて働くことです。尊徳は、単に収入を得るためや出世のため、食べるために働くのではなく、天地人の徳に感謝しながら働くことが大切だと説きました。全てのものにある徳を見つけ、感謝し、自己を高めるために働くのです。常に工夫し、前向きに、精小為大の気持ちを持つて働くことが大切としました。



至誠

「人間も動植物も全ての物や事には、美点、長所、よさ、取柄があり、それらを「徳」として、真心をもって接し、お互いに引き出し合うことが最も大切なこと」です。特に人間関係や仕事関係において、できるだけ正直に誠実に真心をもって接することが肝腎です。



推讓

分度をよくはかれば、多くの人は、自然、歴史、社会、両親から、もらったものが、あげたものより多いことが分かります。そこで、蓄えたお金や力を、世のためのために使うことを推讓と言います。尊徳は、農村を再建するため、殿様や武士が増産分を農民に譲り、農民は貯蓄と将来の土地改良費に推讓をすることをすすめました。



分度

分度とは、尊徳の独自の考え方で、自己の力量と物事の関係性をよくわきまえて行動することです。自分と自然や社会との関係、歴史との関係、両親や地域との関係について、その貸借をよくわきまえた上で、自分の暮らし方や信条・取支を決めていくことです。世の中には関係性が大切で、適度、丁度、節度、程度、限度の分等の客観的尺度をわきまえて、自分を懐とります。



文化財建造物は六つあります。

仰徳記念館

明治17年(1884)、東京露ヶ関に前幕軍の総大将有栖川宮鳩仁(たるひと)親王邸として建てられた数少ない工部省設計の宮廷建築です。昭和13年(1938)、当時の一木青徳社社長が、宮内庁から下賜、移築されました。

(静岡県指定文化財)

仰徳学寮

仰徳記念館とともに、昭和13年(1938)に移築された有栖川宮邸の一部。木造総二階建て寄棟造りの建物です。現在大日本報徳社の事務所や資料保管室になっています。

(静岡県指定文化財)

大日本報徳社の正門

道徳・経済門と刻まれている左右の門柱は、明治42年(1909)の竣工で道徳と経済の調和した人づくりや社会づくりをめざしています。報徳の教えを象徴するもので奥に見えるのは大講堂です。

(静岡県指定文化財)

大講堂と大広間

大講堂(旧遠江国報徳社)は日本で公会堂とされた最初の建物で、掛川城の北東に、二宮尊徳の教えを体系化した報徳思想を普及する中心拠点(無尽蔵舎)として、明治36年(1903)に建設されました。

(国指定重要文化財)



淡山翁記念報徳図書館

大日本報徳社第二代会社長の岡田良一郎(淡山)の遺徳を記念し、昭和2年に建てられた鉄筋コンクリート造りの図書館です。関東大震災で東京の木造図書館が崩壊消失したのでRC工法にした。往時の図書館様式を今に伝える貴重な建物です。

(静岡県指定文化財)

冀北学舎

明治10年から17年にかけて、岡田良一郎が掛川市倉真の自邸に築いた私塾で152名の有名な学者、官僚、政治家の師を育てました。冀北とは北京の北方にある名馬の産地名です。明治32年(1899)に現在地に移築されました。

(静岡県指定文化財)

